

令和4年度病害虫発生予察特殊報 第1号

令和4年10月3日
岐阜県

- 1 作物名 ブロッコリー
- 2 病害虫名 トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae* Emery
- 3 発生地域 東濃地域

4 発生状況

令和4年8月下旬に東濃地域のブロッコリーほ場（1ほ場）において、萎凋症状を呈し、生育抑制されている株が一部で見られた（写真1）。被害株の株元にはアリが寄生しており、地際部を中心に食害痕が確認された（写真2）。アリを採集し、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、トビイロシワアリと同定された。

トビイロシワアリによる農作物への被害は、これまでに21都県においてブロッコリーやキャベツなどのアブラナ科作物の他、ナスやトマトなどのナス科作物でも報告されている。本種による農作物の被害は本県では初確認である。

5 形態及び生態

トビイロシワアリは日本各地（屋久島以北）に広く分布し、西南日本ではごく一般的に見られるアリの一種である。働きアリの体長は約2.5mm、体色は黒褐色～褐色であり、頭部表面の並行した縦じわと胸部の網目状のしわ、前伸腹節後背部の1対のとげ状の突起が特徴である（写真3、4）。

雑食性で、昆虫をはじめ、植物の樹液、甘露、種子などを好んで摂食する。草地や裸地などの日当たりが良く、比較的乾燥した場所に好んで生息し、植物の株元や石下などに営巣する。

6 防除対策

- (1) 本種を対象とする登録農薬は現時点ではない。そのため、以下の耕種的防除を実施する。
- (2) 深耕や灌水などを行って、本種の巣を物理的に破壊する。
- (3) ほ場周辺の除草を徹底し、本種の生息場所を減らす。



写真1 生育不良のブロッコリー株（丸印）



写真2 ブロッコリー地際部の食害痕



写真3 トビロシワアリの側面



写真4 トビロシワアリの頭部及び胸部